

## 選択「技術・家庭科」学習指導案

平成19年11月9日(金) 1校時

会場：石巻市立河北中学校

指導者：石巻市立渡波中学校

教諭 松川 淑

指導学級：第3学年 16名

### 1 題材名 豊かな生活をめざそう ～3Rで生活を工夫しよう～

#### 2 題材の目標

- (1) 自分の生活と環境とのかかわりについて関心を持ち、よりよい生活を実践しようとする。  
(学習への積極性・主体性)
- (2) 生活に役立つものに再利用できるよう計画を立てることができる。(道具を活用する技能)
- (3) 環境を考えた家庭生活を工夫できる。(生活への応用能力)

#### 3 題材について

##### (1) 題材観

学習指導要領では、選択教科としての「技術・家庭」においては、「生徒の特性に応じた多様な学習活動が展開できるよう、課題学習、補充的な学習、地域の実態に即した発展的な学習などを各学校において適切に工夫して取り扱う。」と掲げられている。

今、生徒を取り巻く状況は、低価格の量販店の登場及び技術開発による最新製品の目まぐるしい出現により、現在手元にあるものや、まだ使えるものより一層便利なものそして新しいものを追い求める傾向が強くなっている。その結果、「もの」に対する執着心が薄れ、ものを大切にするという心までもが薄れてきている。その一方、ゴミ増加の問題や各自治体やボランティアの「ゴミの量を減らそう」とする積極的な活動やマスコミの報道によって、ゴミの分別やトレー・ペットボトル容器の回収・リサイクルなど広まりつつある。しかし、実際のところリサイクル専門業者が加工したものを利用するという場面が増えただけである。また、世代を問わず時間に追われた日常生活では、必要なものはどんなものでも簡単にしかも安価で手に入れることができるため、時間がかかることは敬遠され「もの」をつくる機会も減ってきている。

そこで、こういう時代だからこそ「ものを大切にする心」そして自分の生活と環境とのかかわりについて関心をもつことが必要である。また「身近にある材料を利用してものをつくる」、「今あるものに手を加えて再び使う」という体験が豊かな生活をめざして、個々の生活を工夫することにつながると考える。

##### (2) 生徒観

明るく元気で積極的な生徒が多く、男女で履修希望をとっているが全員女子である。製作や実習に関心が高く楽しみながら取り組んでいる。2年次の選択教科「技術・家庭」の内容は、「食」に重点をおき、日常食や郷土料理の実習を学習してきた。今年度は、選択履修時のガイダンスの中で、「豊かな生活をめざそう」をテーマとして取り組むことを伝え実施している。

「3R」について生徒に尋ねてみるとリデュース・リユース・リサイクルという言葉は全員が知っていた。また、「我が家の3R生活」を発表し合う学習では、米のとぎ汁の利用やペットボトルの回収及び歯ブラシ・トレーの再利用等を家庭での実践としてあげた生徒が数名いた。しかし、

その内容は家庭の実践であり、自分たちが行っているのではないことがわかった。

そこで、学習目標を「3Rで生活を工夫しよう」と掲げて、日常生活を振り返りながら課題をもち、解決に向けて実践できる生徒を育てたいと考えた。

### (3) 指導観

事前調査によると、自分の手で3Rを意識した生活を行う傾向が少ないことがわかった。

このような傾向から、生徒自身だけではなく、各家庭においても「環境」や「3R」を意識し実践していない様子が見えてきた。そこで次の点を工夫した授業を展開したい。

まず一点目は、授業の中で自分の生活を振り返り自分たちにできる3R生活の課題を見つけさせ、課題解決の方法を考え実践し調べたことを発表するという学習過程で進め3R生活の大切さに気付かせたい。

次に二点目として、よりよい活動になるように、一人一人が行っている3R生活や課題別研究の発表を聞くことにより、自分の生活と環境とのかかわりに関心をもち、よりよい生活を実践しようとする態度を育てたい。

三点目は、調理実習や染色技法を学ぶ場面を通して、「楽しい」「自分でもまたやってみよう」と感じられる学習づくりを心掛け、「身近にある材料を利用できる実習」を工夫する。

このような学習を通して、3Rの意味を知ることから始まり、「ものを大切に作る心」を育てこれからの生活へと促したい。同時に、環境のために自分たちの手で何ができるのかを考える機会につなげ、生徒から家庭へ発信され、一人でも多くの人々が3Rを心がけた生活を行い、さらに環境問題の改善への一歩になり得ると思われる。

なお、中学生の時期は、自分でもものを選択し購入することが多くなるので、既習事項である「消費者教育」も関連させながら取り組ませたい。

育成したい力

○ 環境を考えた家庭生活を工夫できる力 (生活への応用能力)

### (4) 研究主題との関連

宮城県技術・家庭科

「生活に生かす力」を育てる指導法の工夫  
～地域の特色を生かした授業づくり～

宮城県では「生活に生かす力」を育てる指導法の工夫として4年目の研究となり、石巻地区では、地域の特色である「人」「もの」「環境」の3つの観点をを用い、学習の展開や題材を工夫し、実践・体験的に学習できる場を設定することで、実践的な力がはぐくまれると考えた。まさしくそれが、「生きる力」の育成に結びつき、「生活に生かす力」になると思われた。

石巻では、海の幸・山の幸が豊富で、地産地消の食文化であり、そのため、手作りの食事作りを大切にする地域である。その中で、食材の残りものや廃棄物を有効に活用するなどのリサイクルの観点で学習内容を進めていくことにより、自分の生活の中で身近にある課題として捉えさせ、家庭生活の中で工夫して、実践する態度を育てたいと考えた。

4 題材の指導計画 17時間

小題材	時数	時間	指導内容
「3R」 我が家の3R～ 気づく～ 実践しよう3R～ 課題～	3	1 1 1	・3R＝リデュース・リユース・リサイクルの意味について。 自分の家での3R発表と他の家の3Rについて気づく。  ・これからの生活で実践したい3Rを考えさせる。
食生活 調理実習 まとめ	3	1 1 1	・調理 エコクッキングを考えよう。 ・実習「エコクッキング」 ・実習「材料を丸ごと使った調理をしよう」
住生活	3	1 1 1	・家庭ごみをリサイクル！ 調査編 ・家庭ごみをリサイクル！ 実践編① ・家庭ごみをリサイクル！ 実践編②
衣生活	3	1 2	・衣服のリサイクルとリユースの実態 ・「着なくなった服大変身」簡単なリサイクル作品製作
エコクッキングか ら課題発見	2	1 1	・エコライフ～布を染める・方法について～ ・エコライフ～布を染める・実践～ 本時
3Rで作品作り	2	2	・染めた布で生活を豊かにする作品製作
これからの3R	1	1	・学習した内容を振り返り、これから自分ができる3Rについて考えさせる。

5 題材の評価規準

題材 「3Rで生活を工夫しよう」17時間

学習への積極性・主体性	道具を活用する技能	生活への応用能力
① 3Rに関心を持ち、学習や実習に意欲的に取り組んでいる。	② 身近なものを再利用して生活に活かせる作品に仕上げられる技能を身に付ける。	③ 3R生活を意識して、豊かな生活を送ることができる。

6 題材の指導内容と評価の計画 (別紙 1)

7 本時の指導計画

(1) 題材 「3Rでエコライフ ～不要な布・大変身～」

(2) 本時の目標 エコ染料で染めることができる

(3) 本時の具体の評価規準

- ・ 染色技法を知り実習できる (学習への積極性・主体性)
- ・ 天然染料を用いて染めることができる (道具を活用する技能)

(4) 本時の指導過程 (別紙 2)